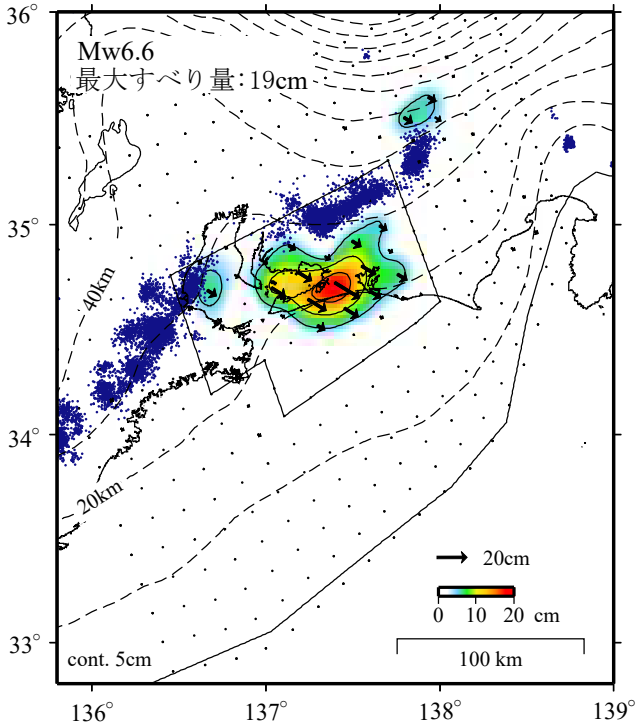
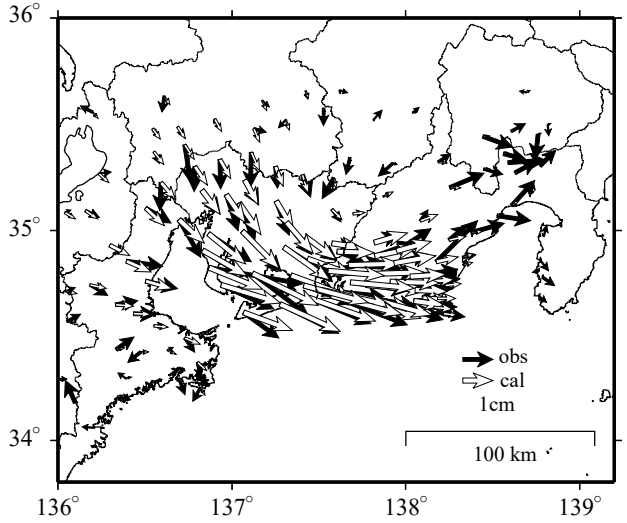
GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり（暫定）

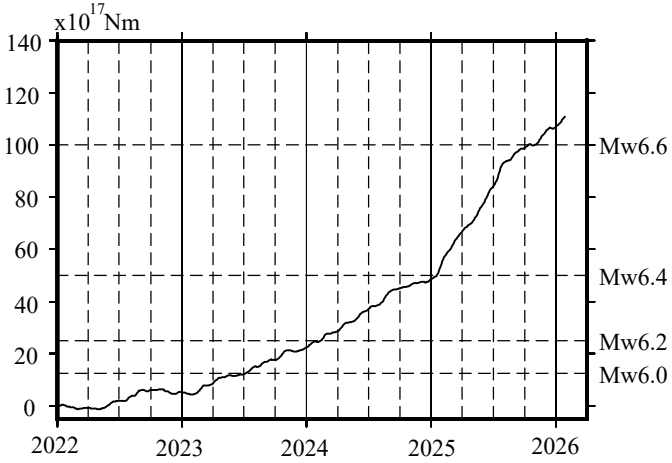
推定すべり分布
（2022-01-01/2026-01-28）



観測値（黒）と計算値（白）の比較
（2022-01-01/2026-01-28）



モーメント時系列（試算）



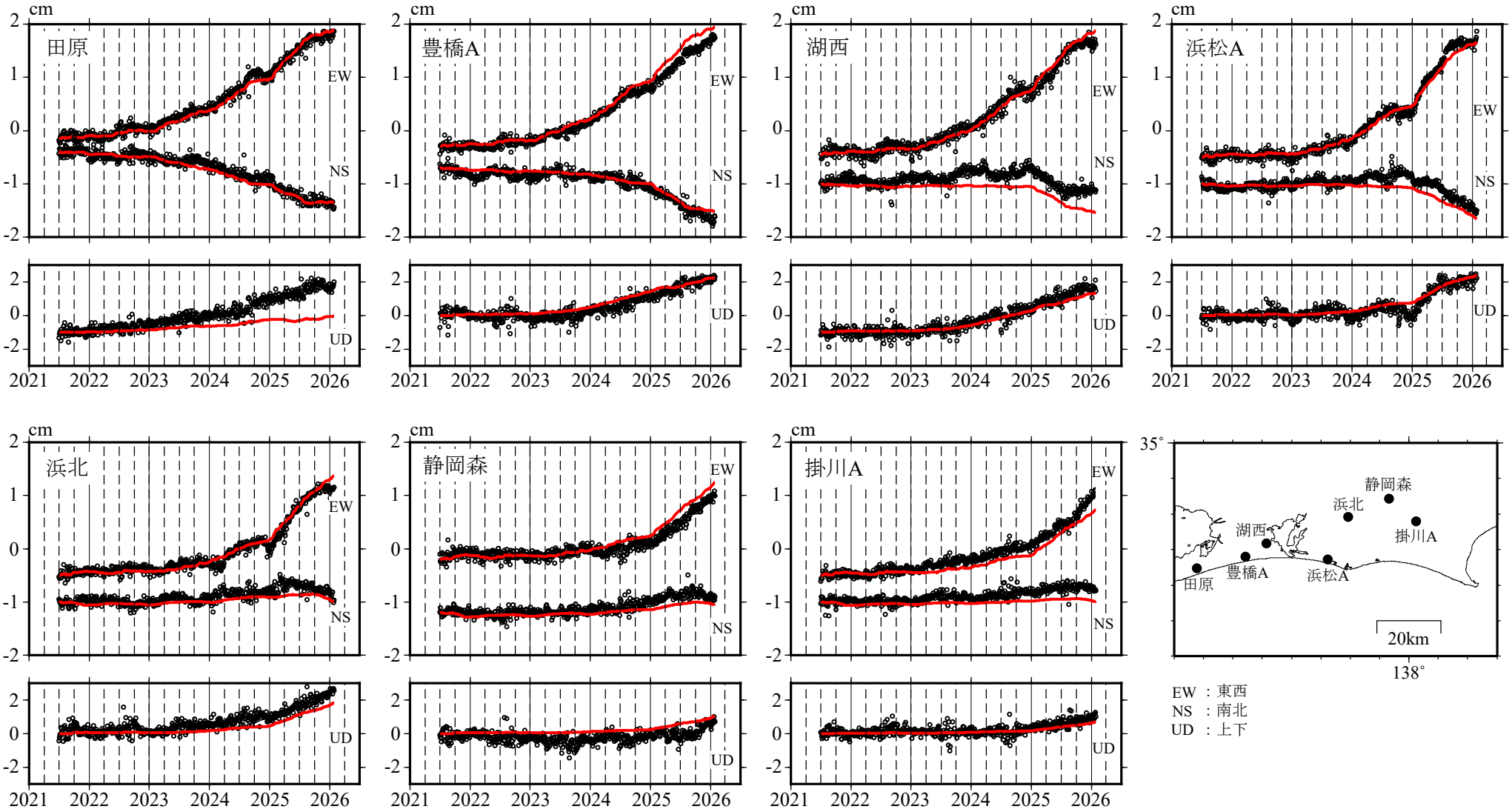
Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。
すべり量(カラー)及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で示している。

使用データ：GEONETによる日々の座標値(F5解、R5解)
・F5解(2021-07-01/2026-01-10) + R5解(2026-01-11/2026-01-28)
・トレンド期間：2020-01-01/2022-01-01(年周・半年周成分は補正していない)
モーメント計算範囲：左図の黒枠内側
観測値：3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al., 2008)
すべり方向：プレートの沈み込み方向に拘束
青丸：低周波地震(気象庁一元化震源) (期間：2022-01-01/2026-01-28)
固定局：三隅

＊モーメント：断層運動のエネルギーの目安となる量。
＊電子基準点の保守等による変動は補正している。
＊気象庁カタログ(2017年以降)の短期的ゆっくりすべりを補正している。
＊共通誤差成分を推定している。
＊平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形は補正している(Suito, 2017)。
＊令和6年能登半島地震に伴う地殻変動は補正している。
＊令和6年能登半島地震の粘弾性変形は補正している(Suito, 2025)。

国土地理院

東海地域の観測点の座標時系列（黒丸）と計算値（赤線）
時間依存のインバージョン



国土地理院